

3 キャトルセンター出荷成績 V 字回復までの道のり

五島家畜保健衛生所

七島 琳、木村 夏美、吉野 文彦

五島地域では、肉用繁殖牛の増頭に向けて各種施策を実施している。地域の繁殖基盤強化に、ごとう農業協同組合（以下 JA）が運営するキャトルセンター（以下 CC）の役割は大きい。今回、低迷した CC の成績を改善するため関係機関と協力して取組みを行ったので、その概要を報告する。

1 CC の活用意義について

五島地域では、飼養頭数の減少を食い止めるため、平成 27 年度から肉用繁殖牛 5,000 頭飼養を目標として、関係機関一体となって管内農家への支援を行い、令和 2 年度に目標を達成した（図-1）。



図-1 五島地域の肉用繁殖牛飼養頭数

繁殖農家の仕事は、牛舎の清掃、飼料作製・給与、異常牛の発見だけではなく、発情発見や分娩介助、哺乳まで多岐にわたる。CC に育成牛を預けた約 6 か月間、育成牛に係る清掃、飼料給与、観察作業が不要で、省力化に期待できる。このように規模拡大が進む中で生産性を維持するためには、JA が運営する CC の活用による省力化が必要と考える。

2 出荷成績低下の現状及び原因分析

令和 2 年 11 月、JA が管内肉用牛繁殖農家を対象に「五島地域肉用牛振興方策に関するアンケート」を実施し、113 名から回答が得られた。その結果、回答者の 32.7%が、CC の飼養管理改善について早急に取り組むべきと回答し、CC の飼養管理に不満を持っている方が一定数いることが判明した（図-2）。

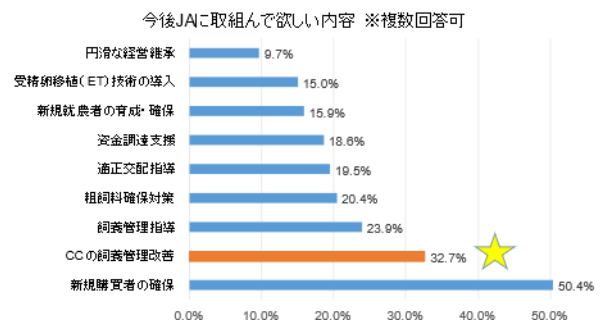


図-2 CCの評価

令和 2 年度からのセリ平均価格の推移をみると、以前から CC 出荷牛のセリ平均価格は、農家出荷牛のそれと比較して低迷しており、令和 3 年 7 月には、去勢は-92,517 円、雌は-107,400 円まで、価格差が広がっていた（図-3）。

CC の評価及び平均価格差を踏まえ、五島市農業振興対策協議会技術者会畜産部会で、構成員である JA、長崎県農業共済組合（以下 NOSAI）、五島市、五島振興局が、出荷成績低下の原因について協議した。その結果、1. 預託牛受入れ時の体制が不十分であること、2. 従業員数及び人材育成が不十分であること、3. 農家からの意見を協議する場がないことが原因として挙げられた。そこで、CC の成績改善を目的に 3 つ

の対策を行った。

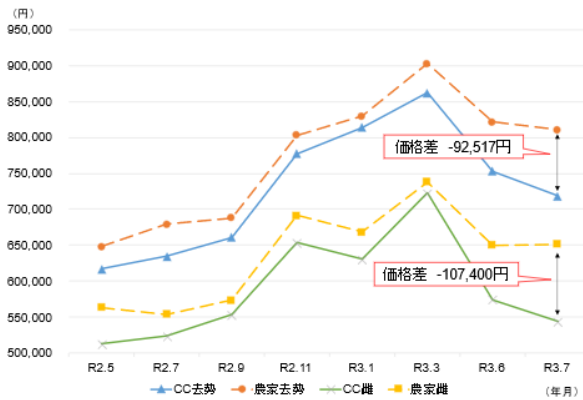


図-3 セリ平均価格の推移(対策前)

3 出荷成績改善対策

(1) 預託牛受入れ時の体制整備

以前は、CC 受入れ後に、真菌症を発症する個体や受入れ時の段階で呼吸器症状等を呈する個体が散見され、CC 全体に蔓延することもあった。さらに群編成は、発育を考慮せず農家ごとの編成としていた。このように人員不足により衛生対策等対応が不十分であったため、令和3年5月以降、CC 受入れ時の人員不足解消のため関係機関も加わり、疾病対策強化を図った。消毒は牛体、車両、牛房の鉄柱に実施した(写真-1)。複数人で牛舎の見回りを行い、異常牛を発見したらその都度 CC 従業員に報告し、隔離飼育をするようにした。また、受入れ前の飼養状況や受入れ時の体重を踏まえ、発育のばらつきが少ないように、群編成を行った。



写真-1 消毒風景

(2) 従業員数確保、人材育成

以前は約 600 頭の預託牛を管理していたが、

平成 28 年に牛舎を増築してから飼養頭数が約 100 頭増加し、死亡頭数も増えた(図-4)。

飼養頭数及び死亡頭数が増加したが従業員数はさほど変わらなかったことから、死亡頭数の増加は従業員不足が一因と考えられた。そこで、令和3年以降従業員数を現在の6名体制まで徐々に増員した(図-5)。

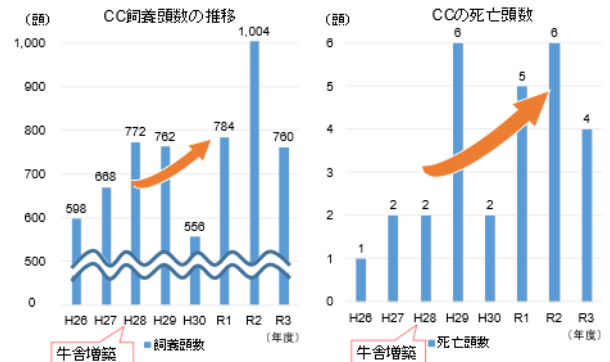


図-4 CCの飼養頭数及び死亡頭数の推移

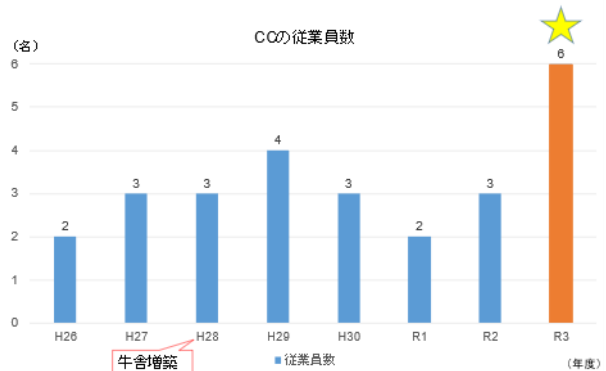


図-5 CCの従業員数の推移

CC 出荷牛の DG は、以前までは去勢 1.0、雌 0.9 前後を維持していたが、令和2年11月に飼養管理を全面的に担っていた職員が退職してから DG が低下し、令和3年7月の農家の出荷牛との DG 差は、去勢-0.12、雌-0.1まで広がった(図-6)。

旧マニュアルは、現場での作業内容と乖離していたため活用されておらず、特定の従業員が経験に基づき作業を実施している状況だった。そこで、受入れ前検査から出荷までの全工程において実施手順、使用機材・記録簿、注意点等を明記した新しい CC 飼養管理マニュアルを整備し、CC 内の連絡体制強化を図った。整備後は、本マニュアルに沿って CC を運営した。

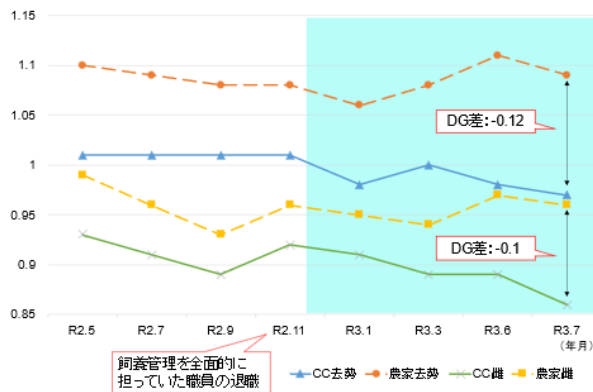


図-6 DGの推移(対策前)

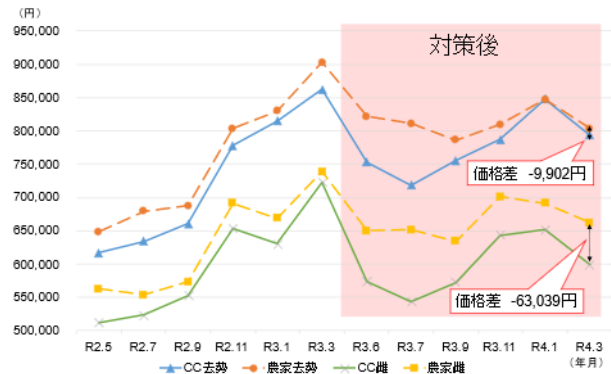


図-7 セリ平均価格の推移(対策後)

(3) 協議会の設立

農家からの意見を協議する場を設立するにあたり、CC 成績低下の原因を取除き、預託牛の体重を全国発育基準以上に引上げることが目的として、CC 改善協議会が設立された。本協議会は子牛セリ市後に開催し、構成員の肉用牛部会役員、JA、オブザーバーの NOSAI、五島振興局が参加した。

4 まとめ

対策実施により、預託牛受入れ時の人員不足が解消され、異常牛の早期発見や飼養環境整備に努めることができた。また、マニュアルの整備は業務平準化に役立つほか、牛飼養歴のない新従業員への指導教材としても効果的となった。さらに協議会の設立により、JA、部会及び関係機関で CC の現状、課題に対する共通認識を持つことができた。以上の取組結果から、令和 4 年 3 月のセリ平均価格差は、去勢-9,902 円、雌-63,039 円と、特に去勢で CC 出荷成績の V 字回復が図られた (図-7)。

令和 3 年 7 月以降から、徐々に DG が増加し、令和 4 年 3 月の DG 差は、去勢-0.02、雌-0.14 と、特に去勢で縮小され、発育が改善された (図-8)。

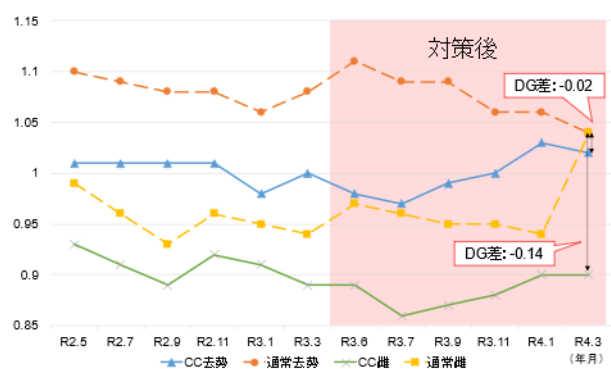


図-8 DGの推移(対策後)

今後は地域版子牛飼養管理こよみの改訂、CC 飼養管理の検証・改善を行い、地域一丸となり五島の畜産振興に寄与していきたい。